

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2019年11月号>

152号 2019.11.01 配信

この度の台風被害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げます。
朝夕の寒さが感じられ、冬の到来を感じる毎日となっておりますが、風邪などにご用心ください。学園では、学生の自主的な企画・運営による第27回秋桜祭の開催に向けて準備を進めており、活気に満ちてきています。同窓会も展示物やバザーで参加し、卒業生の皆さまのお越しを心からお待ちしております。

■ 学園だより

◆ テンプル大学名誉博士号授与式

昭和女子大学理事長・総長 坂東眞理子先生がアメリカ合衆国ペンシルベニア州立テンプル大学から名誉博士号を授与されます。卒業生として心よりお祝い申し上げ、参列いたします。出席を希望される方は同窓会までお知らせください。

日時：11月6日（水）午後5時～6時 場所：昭和女子大学人見記念講堂
坂東理事長・総長からのご配慮で、授与式終了後に卒業生との懇談の場を設けていただくことになりました。（場所 昭和女子大学グローバルラウンジ）

◆ 恩師合祀者及び祭壇（恩師遺影）学内設置

11月4日は人見楠郎第2代理事長のご命日で、ご逝去されて19年になります。

人見楠郎先生のご遺徳を偲び、下記のとおり祭壇を設けます。

ぜひ献花をしてくださるようお願い申し上げます。

今年度より先哲の慰霊祭は墓前祭に統合されました。墓前祭 11月7日（木）11:00～

11月7日は、10時～17時「先哲の碑」前で自由に献花いただける祭壇が設けられます。

■ 同窓会だより

◆ 光葉同窓会生涯学習 第6回お菓子教室を開催しました

1号館地下第2調理室 10月16日（水）1号館地下第2調理室 24名参加

田中多喜子先生（1964年生活科学科卒）によるサワークリームチーズケーキとロッククッキーのお菓子教室を実施しました。毎年楽しみというリピーターの方が増えています。



◆秋桜祭参加お知らせ 第27回秋桜祭 『結』 11月9日(土)10日(日)

今年も秋桜祭に参加します。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。

会場：3号館1階 時間：10:00～15:30(学内は16:00まで)

参加内容：展示「創立者人見圓吉先生の願い」／バザー(全国51支部、同窓生有志同窓会本部)／こどもゲームコーナー／働く女性を支援するワーキングネットワーク活動報告／生涯学習グループ活動報告

※バザーなどの収益金は、学生を支援する光葉同窓会奨学金に充てられます。

■広げよう光の葉

小西 泰枝さん 2015年 大学院生活機構研究科人間教育学専攻修了

「2つの夢」

昭和女子大学附属昭和こども園に奉職して5年が経ちました。実習生として入ったクラスにいた子どもたちが初等部の5～6年生に、初めて受け持った年中組の子たちが3年生になっていたり、幼稚部からこども園へと移行したり。保育者養成課程におけるピアノ教育について大学院で修士論文を執筆したことも5年前のこと、と思うと、時の流れの早さを感じます。

保育教諭として少しずつ先輩の立場となり、相談する側からされる側へとなってきました。子どもへの関わり方や各行事に向けてどのように保育を進めて行けば良いのか、保護者対応について…。答えのない質問に難儀することもあります。5年前、隣のクラスの保育教諭を見ながら保育を進めて行っていた私自身の姿と重ねるとともに、当時、向こう側にいた先輩も答え方に悩んだこともあったのかな、と思いを馳せながら、後輩保育教諭にとって最善な関わり方や今後の参考となる答えができるよう、奮闘しています。

子どもとの関わりの中でも様々なことが起こります。今年度は4歳児年中組の担任として、日々、子どもたちと一緒に考えたり悩んだり、大好きな歌や楽器、音楽を楽しんだりしながら、かけがえのない時間を過ごしています。子どもたちの発想は豊かで、大人では思いつかないような発言をすることも多々あります。つい先日も、突然、「先生は毎日こども園に来ているけれど、お仕事に行かなくていいの?」「大きくなったらパティシエになりたいの。先生はどんなお仕事したいの?将来の夢は?」と聞かれました。子どもたちにとって私は「一緒に遊んでくれる色々なことを知っている “先生” という名前のつく人」らしく、1年半後に自分たちと一緒にこども園を卒園する、とまで思っているようです。この言葉を言われた時、子どもたちの考えに驚きながらも「今、皆と話しているこの瞬間がお仕事!」と心の中で叫びましたが、それと同時に、幼少の頃に思い描いていた姿になれているかな、と振り返る機会になりました。幼稚園の先生になりたい。これは、幼少の頃からの夢です。通っていた幼稚園の先生が優しかったことや両親ともに教師だったことから、物心ついた頃より “先生” という職業に憧れを抱いていました。ですが、それと同時に憧れていたものもありました。それは、“ピアノ(音楽)を楽しむ人”です。家にあったピアノを母が弾いているのを見て、均一に並べられた白と黒の木(鍵盤)を何らかの方式に従って押すことで放たれる音の組み合わせに心を弾ませ、私もこの楽器を楽しめるようにな

りたい、と幼心に思ったのを覚えています。先生をしながらピアノや音楽も楽しむ。これが、幼少の頃に思い描いていた大人の姿でした。

今、それが実現できているのか、というところに考えを移すと、奉職した直後は日々の保育に必死で十分にピアノを楽しむことができなかつたものの、この2～3年は有難いことに友人の結婚式でパイプオルガンを演奏させて頂いたり、歌の伴奏の奉仕をする等、ピアノを楽しむ機会に恵まれているな、と感じています。仕事でも昨年度末より園内の音楽教育について考え企画していくプロジェクトに所属することができ、幼少の頃の夢が少しずつ、でも確実に実現できているように思います。

まだ思い描いていた夢の実現をしきれてはいないと思いますが、この話を先に出てきた子どもたちに話すと、「夢って何個も叶えられるかもしれないんだね!」「すごく良いこと聞いた気分!色んなこと頑張ろーっと!」と嬉しそうな表情をして遊びへと戻っていきましました。この子たちが数十年後、どのような大人へと成長しているのか今から楽しみなのと同時に、私もこの子たちに負けないよう、様々な経験を積み重ねながら“先生をしながらピアノや音楽も楽しむ”という夢の実現に邁進していきたいものです。 End